



母校創立100周年に向けて

OB会を盛り上げよう!

ラグビー部OB会復活を目指して

ラグビー部OB会 設立準備委員会事務局
高24回
野口 幹夫



2015年ラグビーワールドカップや2016年リオオリンピックでの活躍により、今、ラグビーが一躍脚光を浴びています。かつて県陵にもラグビー部が平成15年まで存在し、輝かしい戦績を収めた時代がありました。多くの県陵同窓会の皆さんは、「県陵にラグビー部があったの？」と思っているかもしれません。確かに年代の違いはあるにせよ、メジャーな運動部ではありませんでした。しかし、3年間痛い思いをしつつ、汗を流した多くのOBがいる事も事実です。



全盛時代の頃：S.37.10 陸上自衛隊松本駐屯地グラウンドにて
前列 左から3人目が当時監督の宮城先生

創部は昭和25年に遡ります。ラグビー部OB会を復活させようと、昨年5月に有志で設立準備委員会を立ち上げました。過去にも活動した時期がありますが、再度、部の歴史を正しく後輩に伝え、泥だらけになって楯円球を追いかけた仲間と年代を超えた結束を目指し、県陵100周年の盛り上げにお役に立てればと思っております。卒業後はラグビーに関わっていないくとも経験

長野県ラグビー協会が昭和22年の設立ですから、歴史の深さが分かります。当時も今もラグビーは南信地区で盛んな為、中信では県陵1校のみの時代が多く、練習試合も満足に組めない状況でした。そんな恵まれない環境下、昭和25年と昭和38年にインターハイ県予選で見事優勝しています。これは夏の「甲子園」と並ぶ、冬の高校スポーツの代名詞である全国高校ラグビー大会、通称「花園」に繋がる快挙です。当時は県代表「花園」出場でなかった為、残念ながらあと1勝で花園出場を逃しました。昨年で全66回を数える「花園」県予選ですが、南信以外の優勝校は県陵1校だけである事からもその偉業が計り知れます。



「ラグビー部OB会」設立準備委員の面々

先ずは名簿を整理しつつ早期にOB会を復活させ、そして将来、現役ラグビー部も復活し現役支援ができる事を夢見ております。幸いな名簿は、小沢氏(高17回)のご尽力により昭和世代を中心に約240名把握できています。不明年度は現在個別に情報収集していますので、何か情報がありましたら連絡いただければ幸いです。

最後に、正式なOB会でないにも拘らず、貴重な同窓会報にラグビー部の紙面を割いて頂き、深く感謝申し上げますとともに、同窓会の益々の発展を祈念致します。

野口幹夫(高24回)
連絡先 02613-1588-9227

バスケットボール部OB会「原点回帰」へ

高10回
五味 秀彦



昭和2年創部された籠球部の先輩たちは、「我々が起こした旋風を以って全信州の籠球界に一大ショックを…」と、先駆者としてまた「県陵精神」の発露である「若き熱い血潮」をたぎらせた。この情熱は、現在700名を超えるOB会員の胸に脈々と受け継がれ、現役への経済的支援を活動の中心に据えながら、教職に就いて多くの生徒を育てたOBの方々や育てている方々、大阪府バスケットボール協会長等協会の指導的な立場に立つ方々やまた務められた方々など全国各地で「県陵精神」を発露し大活躍しております。特に関東、東京OB会の頑張りを見れば、厳しい条件を乗り越え活躍している姿はOBとしても誇らしく思います。

バスケットボール部OB会にとって、平成28年ほど大きな驚きと悲しみに包まれました。全国的なベスト8に導き、第2次黄金時代を築かれた茅野慎男先生が2月に、11月には母校バスケットボール部の名選手として自ら第1次黄金時代を築き、母校教員として第3次黄金時代を築きあげOB会長としても活躍されていた山崎正治先生が相次いで西方浄土へ旅立たれました。山崎OB会長は、「県陵の精神」そのままに生きた方であり、その一途な生き方は誰からも愛されておりました。おりしも、創部89周年を迎え、母校も創立100周年を目前にしており、山崎先生にはOB会長として持ち前の豊かな人間性と指導力を存分に発揮して欲しい、現役が第4次黄金時代を築けるよう尽力をして欲しいと、



縣陵バスケットボール部関東地区OB会
2014.12.14 新世界菜館

OB会にとって、大きな求心力を失ったことは否めませんが、今こそ乗り越えて原点に立ち返り、創立時の先輩達がたぎらせた「熱い血潮」の想いの下、直近に迫った「創部100周年」及び母校創立100周年の成功と第4次黄金時代の構築に向けて結束しましょう！

高校野球審判委員募集!!

県ヶ丘高校野球部OB会からお願いです。OB会では長野県高等学校野球連盟審判委員に登録いただける方を募集しています。

高校野球の審判委員は一般社会人が担当し、多くは高校野球のOBです。毎年春・秋に開催される北信越大会、夏の全国高等学校野球選手権長野大会など公式戦のほか各校で行われる練習試合に出向き審判技術を磨いています。また、野球部員に高校野球らしさを正しく教える指導者の役割も担っています。

現在、県陵野球部OB会では3名が登録されていますが、高野連中信支部審判部では、年々審判委員が減少傾向にあり、公式戦の割当にも苦労している状態です。

高校野球審判委員には特別な資格等は必要ありません。春先に行われる技術講習会に参加し、練習試合で経験を積んで公式戦を担当してもらうこととなります。また、野球部OBでなくとも審判委員になることは可能です。

我こそはとお考えの方は、母校野球部西澤部長までご連絡ください。

(高33回 酒井英隆)

母校から国際審判員 誕生の期待!

安曇野の井口朋恵さんが県内初となる日本サッカー協会の1級審判員の資格を取得。

この資格は、井口さんを含めて全国で54人しか持っていない快挙で、県のサッカーの審判に関係した者として、この上ない喜びである。

彼女は父親が県陵の教員で弟や妹もサッカー選手というサッカー一家で育ったことや父親を通じて現審判員や県陵サッカー部の西村監督とも交流があったことなど、早い段階でサッカーの魅力に取りつかれる土壌があった。

幼少の頃はバスケットボールやピアノも習っていたようだが、「世界で一番愛されているスポーツであることが魅力」と中学卒業までプレーを続けていた。

高校は父親の母校でもある県陵の英語科へ。県陵ではサッカー部に入部できなかったものの、代わりに創造学園のフットサル仲間とプレーを続けていた。又、英語力を生かして進んだ大学でもサークルの仲間とフットサルは続けていた。

審判員を目指したきっかけは、中学1年の時、4級に合格してから。審判員だけが得ることができる喜びや充実感から高校1年で3級を取得。1昨年度へ戻り就職と同時に審判活動を再開。その年の8月に2級を取ると更に上を目指し、2級取得からわずか1年3ヶ月でのスピード合格。本人は経験が少ないうえ不安を口にしながら、国際審判員になり五輪やワールドカップの笛を吹きたいとの夢が現実味を帯びてきた。彼女には大学卒業後、南米へ語学留学した事もそのための大きな財産となっている。

県陵サッカー部OBとしては、安曇野出身の麻田将吾君(父は県陵3年時、長野県選抜チームの主将)が来季J2京東サンガのトップチームに昇格という明るい話題、井口さんと同世代で、日本で一番若くして1級となった小出貴彦君も県陵生。

母校に関係した男女2人の1級審判員が、どちらが先に国際審判員になれるのか、又、麻田君の日本代表入りがか、嬉しい悩みが始まる。

(高20回 上條恒嗣)
「元長野県サッカー協会審判部長」